

化学委員会有機化学分科会

日時：2017年12月27日13:00-13:45

場所：日本学術会議6階会議室 6-C(2)会議室

出席委員：茶谷直人，中村栄一，磯部寛之，西郷和彦，澤村正也，菅原正，鈴木啓介，寺田眞浩，中西和嘉，庭山聡美，眞鍋史乃，村上正浩，山口茂弘，山子茂，横山泰

欠席委員：福住俊一

オブザーバー：徳山英利

議題

(1) 中村栄一(委員長) 中西和嘉(副委員長) 澤村正也(監事) 山口茂弘(監事) と決定された。また、徳山英利教授(東北大学) および安藤香織教授(岐阜大学) が化学委員会有機化学分科会委員として認められた。

(2) 中村栄一委員長より、「有機化学における AI の活用」を中心議題とし活動を進めることが提案され、進め方について議論を行った。

(3) 今後の活動方針として、以下の2つの方針で進めることとした。

1. 有機合成化学協会(「AI と有機合成化学」研究会) と協同して議論をすすめる(茶谷委員，村上委員を窓口に交渉を進める)

備考：有機化学合成協会 第二回公開講演会～「AI と有機合成化学」研究会キックオフミーティングを兼ねて 2018年1月31日13:40-19:15

2. 「有機化学における AI の活用」に対する我が国の取り組みの方向性を今期3年でまとめる。特に、AI と化学の接点の不具合の問題解決のために何が必要か1年でまとめる。

(4) 「有機化学における AI の活用」に対する我が国の取り組みの具体的検討課題として、以下の2点を抽出した。

1. 化学と AI をつなぐ人材育成に向けた教育カリキュラムの設定

大学カリキュラムとしてパッケージ(化学者向けの AI コース、情報科学の分野で化学学生が学ぶべき科目セット) の提案

2. 有機化学における AI の活用の方向性：日本の強みとなり得る取り組みは何か。

i) 合成経路予測, ii) 反応開発, iii) 有機材料探索, iv) 実験支援・研究効率化への活用